

cus, さらに *Cotyledon* 属として扱われ, 例えば, Hooker の Flora of British India では Clarke (1878) によって 2 種が *Sempervivum*, 2 種がマンネングサ属に分類されている。腊葉標本を主にヒマラヤ産 *Rosularia* 属を検討した結果欧文欄に記したように 5 種 1 亜種あることが判った。従来 *Sedum adenotrichum* および *S. rosulatum* としてよく知られていた 2 種は *Rosularia* 属のなかでも最もマンネングサ属 (狭義) に近い growth form をもっている。さらに花の員数のうえでも大部分のマンネングサ属のもののように両種ともほぼ例外なく 5 数性である。しかし一部を除く体全体に生じる腺状毛, 基部で合着する膜質の花卉, 腹側に腺状毛を有する子房などの形質は明らかにこれらの種類が *Rosularia* 属のものであることを示していると考え。先に発表した *Sedum Marnieri* R.-Hamet ex H. Ohba は変異の幅ひろい *Rosularia alpestris* に最も類縁に近いことが判った。北村博士の *Sedum nuristanicum*, また Berger (1930) や伝書遐 (1965) によってイワベンケイ属 (*Rhodiola*) のものと考えられた *Sedum Durisii* R.-Hamet もタイプ標本を調べた結果 *Rosularia alpestris* と同種であることが判った。イワベンケイ属のうち *Rhodiola* (= *Sedum*) *primuloides* (Franch.) Fu のように根生葉を生じる種類と *Rosularia* 属のものはしばしば混同されることもあるが, りん片葉の有無によって明らかに区別されるだけでなく, 根生葉の形態も異っている (Ohba, 未発表)。 *Rosularia sedoides* は *Sempervivella* 属のタイプとなる *Sempervivella alba* (Edgew.) Stapf と同種である。 *Sempervivella* 属はすでに Jansson (Jansson & Rechinger, 1970) によって *Rosularia* 属の一節とみなされている。チベット産の *Sedum Balfourii* R.-Hamet も *Rosularia* 属に帰属すべき種類と思われるが手元に標本がなく論評はひかえた。

OPansy の通俗英語名 (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: Colloquial names of Pansy

Pansy の名で知られているサンシキスミレの英語名として, Heart's ease が一般に用いられていることはいうまでもないが, この他にいろいろの俗名が知られている。それは拾うと十指で数えるほどである。これをいちいち拾ったら大変だが, その中に Love in idleness という珍名がある。これは Shakespeare の真夏の夜の夢 (*A midsummer-night's dream*) 第 2 幕第 1 場で Oberon と Puck との間答のなかに Maidens call it love in idleness とあるのがそれで, これが日本訳には「つれづれの恋」と訳してあるが, 註釈のところには, 三色スミレのことだということわってある通りで, あちらの植物の本には昔も今もそのようになっていて, いつも真夏の夜の夢が引合に出てくる。このことは明治の終りから大正にかけて, シェークスピアものが翻訳された頃は, はっきりしていたが, 今日ではなんのことかと思われる現代人も多少あるらしいから記しておく。

(東邦大学薬学部)